

# 「非核の会京都」の30有余年の歩み（1）——1986～91年

望田幸男

## はじめに

「非核の会京都」は1986年の発足から30有余年の歩みを刻んできた。自らの歩みを回顧し、新たな方途を模索することを企図し、ここに発足から今日までの歩みを6期に区分して叙述することにした。その際に、それぞれの時期における全国的取組みと全京都市的視点からの主要な運動経験を書きとどめることにした。そこで、まず本稿では1986年の本会発足から91年までの5年間の叙述対象とした。

### <1> 発足と最初の全府的な運動『ハート・オブ・ピース』発刊

本会は1986年10月8日、結成された。東京の有志の呼びかけに応じて各府県単位に次々に設立された。京都では塩田庄兵衛氏（当時、立命館大学教授）の呼びかけで結成され、ほどなく同氏が東京に居を移されたのを受けて、初代代表には岩井忠熊氏（当時、立命館大学教授）が就任された。

発足当初の取り組みとしては、『ハート・オブ・ピース』なる小冊子を、全京都市的に数千人規模の応募・参加をめざして作成し普及した運動である。これは、府民の「平和の心」「非核の心」を100字メッセージとして投稿されたものを、300ページほどの冊子（予価1500円）とし普及しようとしたものである。

87年8月に運動としてスタートし、約9か月間後の88年5月に2000名を越える寄稿によって「出版記念の集い」を迎えた。本会として最初の大規模な大衆的非核平和運動の成果であった。

### <2> 古都の宗教者シンポジウム

京都における非核平和の運動にとって宗教者の役割は大きく重い。ここに着目し滋賀や奈良の「非核の会」とも協力して1989年10月、「古都の宗教者シンポジウム」が企画された。仏教界の長老・管長・住職、神社の宮司、キリスト教会牧師・司祭、宗教学者などの著名人17名の呼びかけであった。三府県の「非核の会」が事務局の役割を担った。ここでは非核平和の運動が、命と生命の問題に対する人間の有り様を問うという宗教的本質的アプローチがクローズアップされた。このシンポジウムの全貌は、のちに『非核・平和と宗教者』と題して「かもがわブックレット」として発刊された。

### <3> 「非核自治体宣言」運動の広がり

当時の非核平和運動の日常的活動の中心におかれていたのは、「非核自治体宣言」運動であった。これは、各自治体の議会ないし自治体首長が、関係する自治体の名において非核平和の基本政策を宣言する運動である。当時、国際的な同様な運動に呼応するものであった。

京都では本会発足時にすでに、特に南部では前進しており、京都市をのぞく17の市町村のうち11で宣言されていた。だが宣言はされたものの、具体的な非核平和施策の点では手を付けられてはいない現状にあった。

1988年、本会は舞鶴、福知山、南山城などで地域の平和活動家たちとの懇談会や「府南部非核自治体シンポジウム」（八幡市で開催）をもった。この「シンポジウム」には八幡市長、精華町会議長、田辺町や和束町の副議長なども参集された。翌89年には「非核の風を南から北へ」を合言葉に「府北部非核自治体宣言をすすめるシンポジウム」を宮津市で開催した。その際に八幡市秘書広報課長から八幡市の創意的な取り組みが紹介された。

こうして89年8月までに府下人口比で81・5%、面積比で47・7%が非核自治体宣言地域となり、とりわけ府南部では未宣言は久御山・長岡京・大山崎を残すのみとなった。他方、府北部でも網野・峰山・久美浜・丹後町・弥栄町・大宮町が宣言をし、ついに北部地域における非核宣言自治体は岩滝町を残すのみとなった。総じて府下44自治体の3分の2をこえる33に非核自治体宣言の旗が翻ることとなった。